

## 2020年度第3回北陸公法判例研究会開催のお知らせ

晩秋の候、皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、下記の通り今年度第3回研究会を開催いたします。多数の方のご参加をお待ちいたしております。

準備の都合上、研究会会場にお越しになる予定の方は、11月24日（火）までに山崎にご一報くださるようお願いいたします。

### 記

日時： 2020年11月28日（土）13時30分～17時30分

会場： 金沢大学金沢駅前サテライト・多目的ルーム（金沢市広岡1丁目2番20号Mビル3階）  
〔今回の会場は、四高記念館・県教育会館ではありません。ご注意ください〕

#### 1. 瑞慶山 広大（九州産業大学）

〔研究報告〕 ナッジの公法的統制は可能か？

〈参考文献〉

- ・成原慧「それでもアーキテクチャは自由への脅威なのか？」那須耕介＝橋本努編著『ナッジ！？——自由でおせっかいなりバタリアン・バターナリズム』（勁草書房、2020年）45頁以下。
- ・中原茂樹「行政上の誘導」磯部力ほか編『行政法の新構想Ⅱ——行政作用・行政手続・行政情報法』（有斐閣、2008年）203頁以下。

#### 2. 森田 崇雄（関西大学）

〔研究報告〕 環境アセスメント手続の瑕疵と司法的救済

—米国国家環境政策法に基づく訴訟からの示唆—

〈参考文献〉

- ・柳憲一郎『環境アセスメント法』（清文社、2000年）111頁。
- ・畠山武道「持続可能な社会と環境アセスメントの役割—NEPAをめぐる最近の議論よせて—」環境法研究5号（2016年）140頁。
- ・大久保規子「環境影響評価と訴訟」環境法政策学会編『環境影響評価—その意義と課題』（商事法務、2011年）59頁。
- ・森田崇雄「米国国家環境政策法（NEPA）に基づく差止訴訟に関する一考察——「回復不能の損害」の要件を中心として——」同志社法学第359号（2013年）249頁。

研究会幹事 山崎 友也（金沢大学） E-mail: tyamazak※staff.kanazawa-u.ac.jp

送信時には※をアットマークに変えてください